花と緑を取り入れた生活の推進

地域名　栃木県さくら市　**19班**　コミュニティデザイン学科　湯浅咲菜　荷見真衣
パートナー　さくら市都市整備課　建築都市デザイン学科　小原莞織　小澤秀活　清水翌花
社会基盤デザイン学科　西澤明人夢
グループ指導教員　中川崇章

1. 背景

〇植物の効果
植物を生活に取り入れることで様々なメリットがある

ストレス軽減 | 空気清浄 | 視覚疲労緩和 | 温熱環境調整 | 快適性向上

〇さくら市の政策
花と緑に関する条例が制定(令和4年度)

［目的］桜と花と緑で彩られた街づくりを推進し市民が生涯にわたり生活を楽しむことができる社会を実現する

［手法］市民主体の花や緑の推進とその働きかけ
→市民が花や緑の推進に積極的な役割を果たす

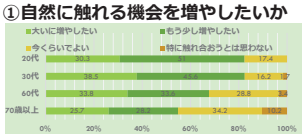
2. 目的決定に至る背景

1st cycleの活動方針

年代ごとの興味関心を調査 → ターゲット決定 → アプローチ方法の模索

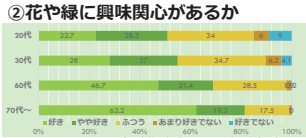
<先行研究調査>

①自然に触れる機会を増やしたいか



意識調査Fromプラネット　Vol.177　園芸・花や緑のある生活に関する意識調査

②花や緑に興味関心があるか



内閣府　自然の保護と利用に関する世論調査

⇒若者は花や緑へ触れる機会が少なく、興味関心も低いが、機会を増やしたいと思っている人は多い。
⇒機会が増えれば興味関心も高まるのではないか。

3. 目的

生活の中に花と緑があふれるさくら市を目指して

花と緑に興味関心が低く、植物にふれる機会が少ない若者をターゲットとし、さくら市の若者の花や緑への興味関心を向上させる。未来を担う若者が花や緑に興味を持ち、植物に触れ、育てることが日常になることで、これからのさくら市で暮らす人々の生活を花と緑で豊かにしたい。

①どうすればきっかけができるか→ヒアリング・アンケートから
②どのように継続性を持たせるか→イベントの実施から

**若者に花と緑に興味を持ってもらい
より花と緑で豊かなさくら市を目指す**

4. 調査結果(ヒアリングとアンケート)

さくら市の桜保護団体の大人の方(6名、19/30名)

ヒアリング・アンケート調査(6/18)
①花や緑に興味を持つようになったきっかけ（両方）
②若者に花や緑に興味を持ってもらう方法　(ヒアリング)
③花や緑を育てる楽しさはどんなところか(アンケート)

結果
①時間に余裕ができてから、育てるやりがいを知ってから
②花が咲く、実がなるなどの感動体験・楽しい経験が大事
③達成感や感動体験を得られるところ

意見を踏まえて活動案を提示

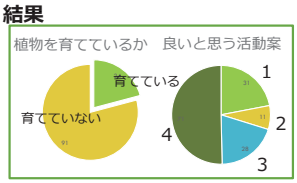
〔活動案〕
1 苔玉・多肉植物のアレンジワークショップ　←個人
2 花瓶やプランターのフリマ　←個人
3 駅前プランターの設置　←全体
4 自然を感じられるテラスの設置　←全体

【アプローチの方法】

さくら清修高校(6名、115/236名)

ヒアリング・アンケート調査(7/2)
❶植物を育てたきっかけ、育てていない理由
❷活動案についてどう思うか、惹かれる点/惹かれない点など

結果



❶育てたきっかけ：親の影響
　育てない理由：場所・時間・興味
❷
1と2：参加までのハードルが高い
3と4：共有は参加する人が偏る、直接的なきっかけになりにくい

考察
若者の意見：個人で行えるものが良い
大人の意見：感動体験があるものが良い
　→個人で行える＋育てることに感動体験や達成感を持たせる
身近な人の影響力→身近なイベントで植物に触れる→受動的に機会を得られる

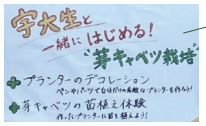
ゆめ！さくら博への出展

イベントの工夫ポイント

・変化が大きく**感動体験**○、時期○、水やりの頻度が低く**簡単**　→芽キャベツ
・オリジナルの鉢で**愛着**を持たせる
・視覚的にわかりやすい**ポスターと見本**の作成
・**パンフレット**にお世話のポイントを記載
・直後と2か月後の**アンケート**でイベント自体の評価と興味関心が醸成できたか把握
・**公式LINE**で継続的な発信と個々へのアドバイスを行う

5. イベントの実施

〇概要
「第20回　ゆめ！さくら博＆福祉まつり」（10/20 10:00~13:00)
内容：芽キャベツ鉢植え体験＆鉢植えデコレーション
〇イベントの趣旨
①植物を育てるきっかけにする
②オリジナルの鉢で愛着を持たせる　→　継続して植物を育てる
③植物を家で育てててもらう　→　手軽さを知る＋植物への興味関心を高める
〇参加者のデータ
10組〔親子 1組, 30~40代 3組, 50~60代 3組, 70代 3組〕＋苗配布5組



ボードにイベント内容に関する説明を提示

パンフレットを作成して配布

鉢にペンやシールでデコレーション☆

苗植え体験中☆

〇イベントの振り返り(アンケート結果を踏まえて)

<良かった点>
・体験と知識の結びつき(苗を植えながら水やりの説明などの反応◎)
・"収穫"を楽しみにしてくれる人が多い→枯らす＜食べられる　に意識が向いた
・自分の鉢への満足感から育てるワクワク感がプラスされた

<反省点・改善点>
・若者や育てたことがない人の集客が不十分→対象者を絞った募集やそのための掲示物の用意＋通行人へのアピール
・植物への理解を深められる経験の提示不足→掲示物を増やし視覚的な学習効果を高める
・鉢のサイズ感から敷居が高まった→イベント時期・主旨に合う植物が大きい鉢が必要であった→より良い時期での実施

6. 事後アンケートとその結果

イベント実施前のアンケート：「植物育てたことない」(5/15人)
事後アンケート：「他の植物も育ててみたい」(15/15)　植物を育て続けたい人増加！

アンケート結果	考察
・経験者・未経験者ともに満足度が高かった ・オリジナルの鉢により愛着を持ち育てられた ・食べられる植物であることに好感触 ・パンフレットを活用した参加者が多かった	・植物に関する関心が高まった ・愛着を持ってもらうために自作の鉢は有効 ・感動体験・達成感を感じることは重要 ・主催者側からの情報提供は重要

〈反省点・改善点〉
・育てている間、生育状態に不安を感じる人が多かった
　→主催者と参加者・参加者同士のつながりを作る必要がある

7. 最終提案

イベントの工夫
・掲示物を活用し、ターゲットとする若者への視覚的なアプローチ
・収穫できる植物にすることで期待感や成果を得られるように
・主催者と参加者の関係だけでなく参加者間の相互的なつながりを作る

参加者同士のつながりの構築

植物を継続的に育てること、興味を持っていない人へ影響を与えることに繋がる
ネット上のつながりと対面のつながりから

現在

主催者 ⇔ 参加者
LINE公式アカウント
LINEの公式アカウントを作成し、芽キャベツの生育状況や情報を共有。

今後

参加者 ⇔ 参加者
LINEオープンチャット
参加者同士のつながりが続くため、情報共有を行いながら植物を継続的に育てることができる。

共有花壇・テラスの設置
地域の人々が自由に植物を持ち寄り共同で育てる。誰でも自由に利用できるテラスで植物を通したつながりが広がる。

ネット上のつながり　　対面のつながり